



石川県済生会金沢病院 〒 920-0353 金沢市赤土町二 13-6 TEL (076) 266-1060 FAX (076) 266-1070
E-mail saiseikh-s@saiseikaikanazawa.jp URL <https://saiseikaikanazawa.jp/>

コロナと震災と地域連携

患者サポートセンター副センター長 兼 地域連携室室長

五十嵐 哲郎



私が地域連携業務に携わって、5年が経とうとしています。

きっかけは、診療放射線技師をしていた私に、奥名参事が声をかけてくださり、地域連携業務に興味を持つようになったからです。1年ほど両方の業務を兼務したのち、荒木院長から「地域連携室専属で業務をお願いできないか。」と言葉をいただき、地域連携室へ配属となりました。

業務に携わった当初は、地域医療機関への訪問やなでしこ出前健康講座を通じて、患者紹介を増やすことが私の主な業務でした。

2020年2月末から、業務内容が一転し、新型コロナウイルス感染症患者への対応が必要になりました。当院は県の要請を受けて、当時、致死率の高かった新型コロナウイルス感染症疑い患者の対応をおこなっていました。当時は放射線業務も兼任していたので、患者を専用ルートでCT室へ誘導し、感染防護具を着込んで撮影をおこなっていました。病院もコロナ陽性患者の入院対応に重点を置き、地域からの紹介患者の受け入れを制限するようになりました。

2023年5月、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、地域連携室は本来の業務に戻ることになりましたが、待っていたのは地域からの紹介患者激減でした。受け入れ制限中に他のルートを見つけたからです。地域連携室はクリニック訪問を再開・強化し、信頼回復に努めました。その甲斐もあって、9月頃にはコロナ禍前まで回復しました。

2024年1月1日、能登半島地震が発生、被災地、避難所、救急、地域クリニックなど、さまざまなルートから入院要請が来るようになり、急激な入院患者増で満床状態に至り、再び地域からの受け入れを制限することになりました。

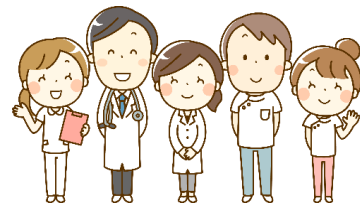
振り返れば、患者紹介を増やすことが業務になるはずだったのに、コロナ禍や震災により、たびたび患者受け入れを制限する日々となりました。

予測のつかない経験の連続ですが、一日も早く通常業務に戻り、地域医療機関からの紹介患者を円滑に受け入れられることを願っています。

令和5年度 外来患者満足度調査の結果について（抜粋）

<調査目的>

今後のより良い病院に向けての検討及び患者サービスを推進する際の基礎資料を得るため、現在の外来の実態や当病院への評価・満足度を把握し、その問題点の改善や満足度の向上に役立てることを目的として実施。



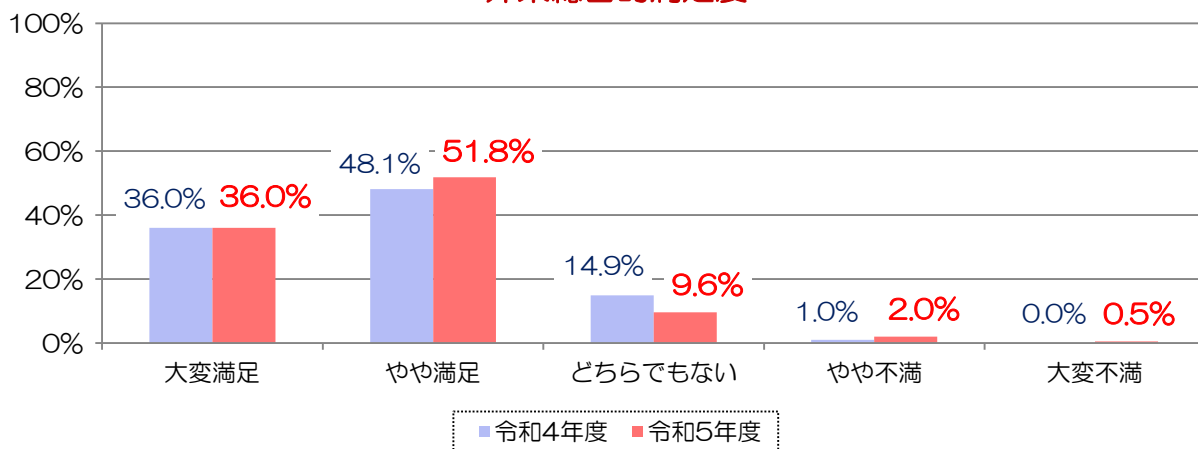
<調査設計>

- ・調査対象：令和5年10月23日（月）～27日（金）に来院された外来患者さん及びそのご家族
- ・調査方法：院内でアンケート用紙をお渡しし、院内設置の回収箱で回収

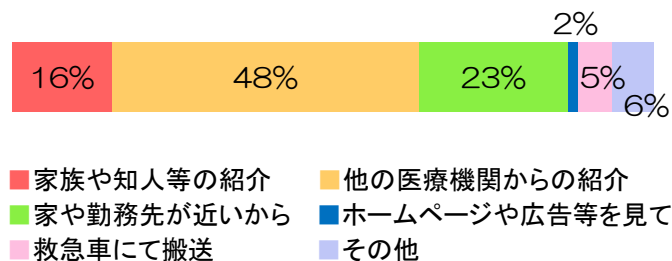
外来総合的満足度（有効回答のみを集計）【回答総数：259人】

年度	有効回答数	総合点数	大変満足 (5点)	やや満足 (4点)	どちらでもない (3点)	やや不満 (2点)	大変不満 (1点)
R4	397	4.19	143人 36.0%	191人 48.1%	59人 14.9%	4人 1.0%	0人 0%
R5	259	4.20	71人 36.0%	102人 51.8%	19人 9.6%	4人 2.0%	1人 0.5%

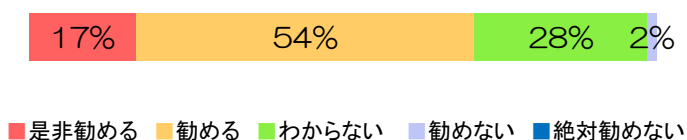
外来総合的満足度



当院を受診されたきっかけ



当院を他の方へ勧めるか



「やや満足」と回答してくださる方が増え、総合満足度が昨年度と比較しわずかに増加しましたが、同時に「やや不満」「大変不満」も増えており、いただいたご意見を参考にしながら、より良い病院となるよう改善していきたいと思っています。

当院を他の方へ勧めるかという設問では、昨年度は「是非勧める」及び「勧める」の回答が67%でしたが、今年度は71%に増え、嬉しい結果となりました。

今回の調査結果を踏まえ、さらに多くの患者さんに選ばれる病院となれるように、職員一人一人が常に患者さんファーストを自覚し、医療サービスの向上に努めていきます。アンケートにご協力くださった患者さん、ご家族の皆さまに深くお礼を申し上げます。



Q 尿検査の際のトイレが狭いです。トイレの扉が内開きになっているので、体が大きいととても出入りしにくかったです。

A このたびは大変ご不便をおかけして申し訳ありません。採尿室については、個室スペースの間口が狭く、車椅子でのご利用が難しいとのご意見を踏まえ、現状のトイレスペースを最大限広く利用できるよう、令和3年に改修を行いました。ご利用の状況によっては、ご不便を感じる場合もあるかと思いますが、出来る限り患者様に寄り添って対応させていただきたいと考えております。ご意見ありがとうございました。

Q 採血での待ち時間が長い。

A このたびは大変お待たせして申し訳ありません。採血室の待ち時間の短縮に向けては、技術の向上、システム、予約体制など様々な課題がありますが、患者様にとってよりよい診療体制をとれるように病院全体で取り組んで参ります。ご意見ありがとうございました。

Q 看護師さん香水つけないで。

A 不快な思いをさせてしまい申し訳ございませんでした。ハンドクリームや柔軟剤の香料も考えられるため、患者様からのご意見を受け止め、周知するとともにお互いに気付いた場合は注意し合うことといたしました。

Q 会計の一部の方が言葉遣いや態度が問題。

A 不快な思いをさせてしまい申し訳ございませんでした。接遇強化の取り組みを行っていますが、更なる強化に努めてまいります。

感謝のお言葉など



皆さん(Dr・Ns・受付などの職員さん)本当に毎日ご苦労様です。病院のおかげ様で命を長らえております。感謝にほかありません。皆さんお身体に気を付けてこれからも私達患者に寄り添っていただけたらありがたいです。今後も宜しくお願いします。

ソーシャルワーカーの方がとてもステキで安心しました。

皆とてもやさしく医師も丁寧な説明をしてくれナースや技師、窓口の事務員にいたるまでとてもやさしく素晴らしい病院だと思いました。ありがとうございます。

いつもお世話になっております。ありがとうございます。エスカレーター横の魚のステッカー？が水族館のようで気に入ります。ずっと変えないでいてほしいです。

母は心配性なので先生の心優しい説明に感謝です。いつもありがとうございます。

第6回 済生会リハビリテーション研究会 in 金沢

済生会グループでリハビリテーションの質の向上に取り組む『済生会リハビリテーション研究会』が、11月25日(土)金沢東急ホテルにて開催され、全国済生会病院のリハビリテーションに関わる多職種が一同に集まり、106名が参加しました。

『ソーシャルインクルージョンの実現を目指して～今、リハビリテーションにできること～』を大会テーマに、大会長の荒木院長が「コロナ禍で交流が希薄となった今こそリハビリテーションを通じて誰もがいきいきと生活できる社会にしていきたい」と挨拶しました。

特別講演では、地元のフリーアナウンサー塚田誉氏が『誉のドコいく？旅の途中で』と題して、ご自身の当院でのリハビリテーション体験から感じたことや、けがや障害があっても人と人が伝えあい共感することの大切さなどをお話してくださいました。最後にギター弾き語りで会場を盛り上げて下さり、会場全体が和やかな空気に包まれ、全員で手拍子をしながら一体となり、楽しく貴重な時間となりました。

また、シンポジウムではリハビリテーション部長の岸谷先生が座長を務め、『いきいきと地域で生活するために～リハビリテーションの可能性を探る～』をテーマに、介助犬と暮らす平野友明氏のお話と、当院を含む4施設が取り組みを発表しました。当院からは訪問看護ステーション言語聴覚士の山本愛佳さんが『在宅領域での言語聴覚士の役割と課題』と題し、自宅退院後に様々な問題に直面する利用者や家族に対し訪問STとしてこれまでに行ってきた支援について報告や考えを講演しました。

一般演題も42、ポスター展示5の合計47の発表がありました。

有意義な研究会になりました。今回の研究会が、活発な意見交換や情報交換により、済生会のリハビリテーションに関わる方々の研鑽や研究会の発展につながることを願っております。

開会式



荒木勉院長

特別講演



塚田誉氏

シンポジウム



座長 岸谷都理リハビリテーション部長



平野友明氏



言語聴覚士 山本愛佳



医療や福祉関係の企業の展示ブース



ポスター展示

Snap 冬のアートプロジェクト

12月1日(金)、SNAP(済生会なでしこアートプロジェクト)チームによって、紙管を組み立てた『ゴールドに輝くクリスマスツリー』が今年もエントランスに展示されました。11月30日(木)16時から組み立て作業を開始し、約3時間ほどで完成しました。

クリスマスが終わったあとは、ツリーのオーナメントを玉飾りや「迎春」の色紙に変え、お正月飾りにしました(お正月飾りは1月12日(金)に撤去済です)。

組み立て中…



完成!



令和6年も、来院される患者さんを温かな雰囲気でお迎えし、病院スタッフにも日々の活動にゆとりと喜びをもってもらえるアートを展示したいと思います。

クリスマスコンサート

12月25日(月)、エントランスホールにて、クリスマスコンサートが開かれました。

演奏は、当院の医師、看護師、薬剤師、医師事務作業補助者、警備の7人で結成された『SKE(済生会金沢アンサンブル)』が、フルートやサクソで「見上げてごらん夜の星を」「きよしこの夜」「あわてんぼうのサンタクロース」など5曲を奏でました。

エントランスホールには患者さん約40人が集まり、温かみのある音色に癒されました。音楽に合わせて体を揺らしたり、メンバー紹介で1人1人に大きな拍手を送る患者さん達から、コンサートを心から楽しんでいる様子が伝わってきました。



フードバンク活動への参加



今回もたくさん集まりました!

済生会では、生活困窮者を支援する事業として「なでしこプラン」を実施しています。その一環として、職員から余剰食品を募り、必要な方々に寄贈する「フードバンク」活動があり、余剰食品等の提供を通じて、持続可能な社会の構築と誰も取り残さない社会をつくることを目指しています。

フードバンク活動は夏と冬の年2回行っており、令和5年度第2回目となった今回は、食品114点が集まりました(募集期間:令和5年12月18日～令和6年1月12日)。

集まった食品はNPO団体フードバンク金沢・能登へお届け致します。



『令和6年能登半島地震』があった日

元日の夕方に発生した「令和6年能登半島地震」は最大震度7、金沢市でも震度5強を観測しました。

地震直後、まず入院患者さんの安全を確認し、同時に院内にいた職員・参集した職員を中心に災害対策本部を設置しました。建物やライフライン、医療機器等の状況を確認したところ、エレベータとガスが使用できないことが判明しましたが（発災当日に復旧）、それ以外は大きな被害はありませんでした。

エレベーターが使用できない為、患者さんへの夕食を調理室のある地下から病棟まで、職員によるバケツリレー方式で配膳しました。

また、発災時に大津波警報が発令されたこともあり、近隣の住民約80名が当院に避難されてきました。すぐに院内に臨時避難所を開設し、毛布やマットなどを提供するとともに、院内売店の協力を得て、おにぎりなどの提供も行いました。



配膳リレー



臨時避難所

なでしこ出前健康講座

当院では、専門の医師、認定看護師、その他スタッフによる『なでしこ出前健康講座』を行っています。2019年から開催され、2023年秋で累計公演数が100を超えました。たくさんのご依頼ありがとうございます。

今後も本講座が当院と地域の方々との交流の場となり、さらに当院を身近に感じてもらうきっかけになればと思います。



講座一覧や
申込み方法などは
当院のホームページ
をご覧ください。

登録医のご紹介

金沢消化器内科・内視鏡クリニック野々市中央院



住 所：〒921-8821

野々市市白山町438番地

T E L：076-259-0378

診療科名：内科、消化器内科、肝臓内科、
肛門内科、乳腺外科

診 療 時 間	月	火	水	木	金	土	日
8:30~13:00	●	●	●	●	●		9:00~
14:00~17:30	●	●	●	●	●		16:00
8:00~16:00						●	

休診日・・・祝日

※日曜日は不定期に検査(内視鏡)のみ実施 9:00~16:00

医療技術の進歩により、早期の癌であれば胃癌や大腸癌の内視鏡治療など、体に負担の少ない治療で根治を目指せるようになりました。しかし、進行した状態で受診される患者様も多く、多忙や内視鏡検査の苦痛を理由に受診を躊躇う方もいます。患者様の「症状があったけど忙しくて受診できなかった」、「内視鏡検査は苦しいと聞いているから受けたくなかった」という声に耳を傾け、受診ハードルを低くし、気軽に受診できるクリニックを目指し立ち上げました。苦痛が少なく、質の高い医療を提供し、「消化器のがんで苦しむ方を0にする」ことを目標に、皆さまの健康を守り、地域の発展に貢献していきたいと思っています。



院長：中村 文保 先生